



せんしょう苑 望洋荘 便り

第156号
平成28年
11月発行

開業医における老人医療と危機管理―その二―

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

開業医は医療設備の他に親切、危機管理の出来る規模・組織を持つことです。患者さんだけにではなく、従業員にも親切でなくてはなりません。従業員に親切が行き届くには、従業員の数が目の届く数と云うことです。多くの人数では目が届きません。診療する患者さんにも満遍なく「親切」を届けるには沢山の患者さんでは無理です。「病室は持つな」といつても、開業医が外来や在宅で診ている人で、時には入院が必要な患者さんが沢山あります。しかし、日本医師会の会長を長く在籍された武見会長は、引退される頃すでに「将来の高齢化社会の到来」を予測していました。急性疾患の時代が去って、慢性疾患がはびこるのです。慢性疾患と言っても時には急性期があります。その時は、入院させて処置をせねばなりません。勿論その急性期は一週間か、短期間でよいのです。患者さんは、その期間が過ぎたら、自宅に帰って療養すればよいのです。そう考えた時、「オープン病院」と「在宅医療」はセットでなくてはならないと主張していました。

いわき市でも在宅医療の考え方を進めていますし、介護施設も増えてきました。それと共に開業医は病室を持たなくなりました。有床診療所が極端に減少したのです。その原因はいくつかありますがそれはまた別の機会に述べましょう。

古い時代には開業医は「往診」を普通の仕事として自他ともに受け入れていました。この三〇年位で往診が少なくなりました。開業医が大学病院のよう到来院を待つて診察する時代になりました。レントゲンを始め検査機器の普及が、大学病院や大病院に行かなくともある程度の検査や診療が出来る、そんな医療環境から開業医をしてクリニックの椅子に座らせてしまったのです。もちろん、色々な検査機器が不要と言わうわけではありませんが、患者さんが高齢化し寝たきりで自宅や施設から動けない時代になってきたのです。これからは医者が患者さんのところに足を運ぶ時代になったのです。足を運ばない開業医は仕事がなくなります。「危機管理」を「在宅」でやるのです。これからの医療、福祉、介護を合わせて考える時、都会であろうとも、過疎地であっても、特別養護老人ホームや、老健施設、グループホームでもよいのですが、規模の小さい施設（できたら収容人数が三〇から四〇人ぐらいの施設）を行政の運営ではなく開業医あるいは開業医のやる気のあるグループに管理させたら素晴らしい福祉社会が実現すると考えております。今、福祉でも国家財源の無駄のない社会実現を真剣に考えていかなければ日本は崩壊の道を辿ることになるでしょう。



お茶会

望洋荘



薄磯ユニットでお茶会が催されました。機能訓練指導員の石内がシェフとなり、フレンチトーストを振る舞いました。皆さん、甘い物には目がないようでした。また、職員より入居者の皆様へ、写真と一言を添えた額縁をプレゼントさせていただきました。



マルトの訪問販売

せんしょう苑

せんしょう苑で、十一月六日にスーパーの「マルト」さんが訪問販売を催してくださいました。季節の変わる時期と重なり、入居者の皆さんも冬服を物色していました。



ハーモニカ演奏

せんしょう苑

せんしょう苑で、十一月二七日にボランティアの伊藤夫妻によるハーモニカの演奏をしていただきました。童謡や懐メロなどを中心に演奏していただき、皆さん昔を思い出しているかのよりに聞き惚れていました。



十二月お誕生日の皆さん

【望洋荘】

| | | | |
|---------|---------|-----|----------|
| 鈴木 正一 様 | 十二月 三日 | 九四歳 | 勿来ユニット |
| 鈴木 喜平 様 | 十二月 一日 | 九一歳 | 永崎ユニット |
| 佐藤 常子 様 | 十二月 二日 | 八一歳 | 四倉ユニット |
| 網掛 房 様 | 十二月 六日 | 九五歳 | みまや東ユニット |
| 松崎 貞子 様 | 十二月 一〇日 | 八〇歳 | みまや西ユニット |

編集後記

『望洋荘・せんしょう苑 便り』
平成二十八年 十一月三十日発行
発行所 いわき市平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人 りんさく福祉会
介護老人福祉施設 望洋荘

地域密着型介護老人福祉施設 せんしょう苑
電話 (0246)55-7373
電話 (0246)38-6331